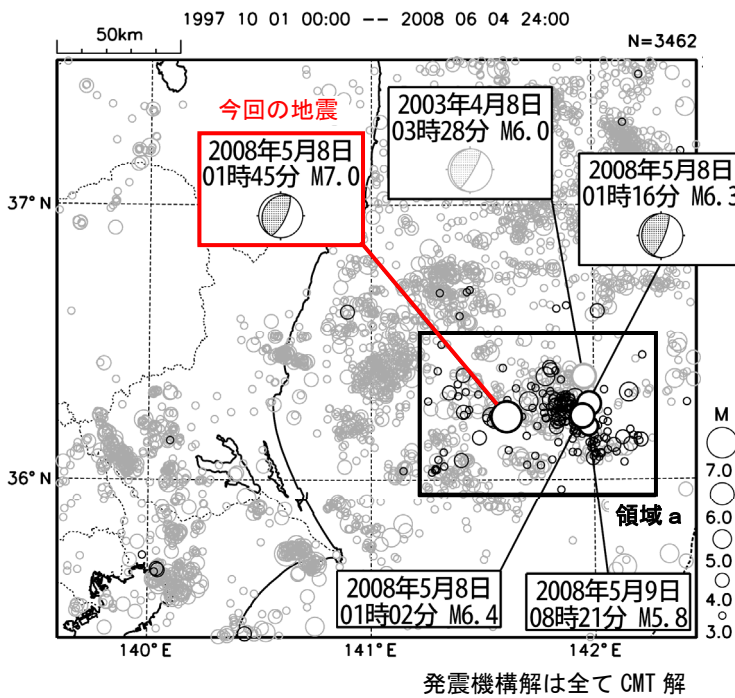


5月8日 茨城県沖の地震

震央分布図 (1997年10月以降、深さ0~90km、 $M \geq 3.0$)
(2008年5月以降の地震を濃く表示)

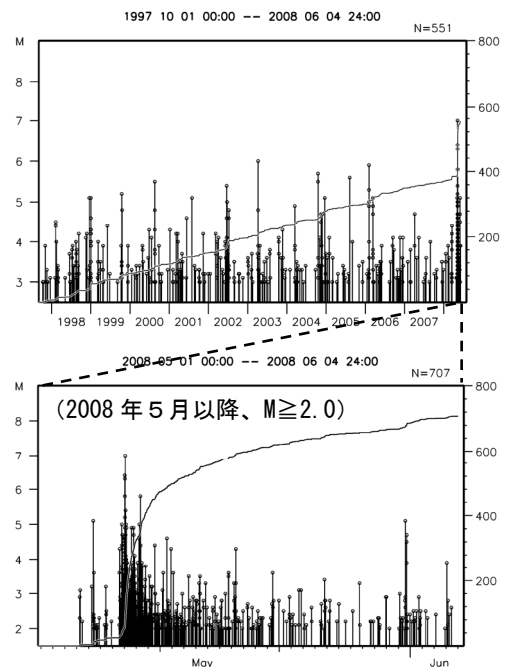


1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域a)では、 $M5.0$ 以上の地震が1年に1回程度の割合で発生していたが、最近では2006年3月13日の $M5.1$ (最大震度2)の地震以降、今回の地震活動が始まるまで $M5.0$ 以上の地震は発生していなかった。

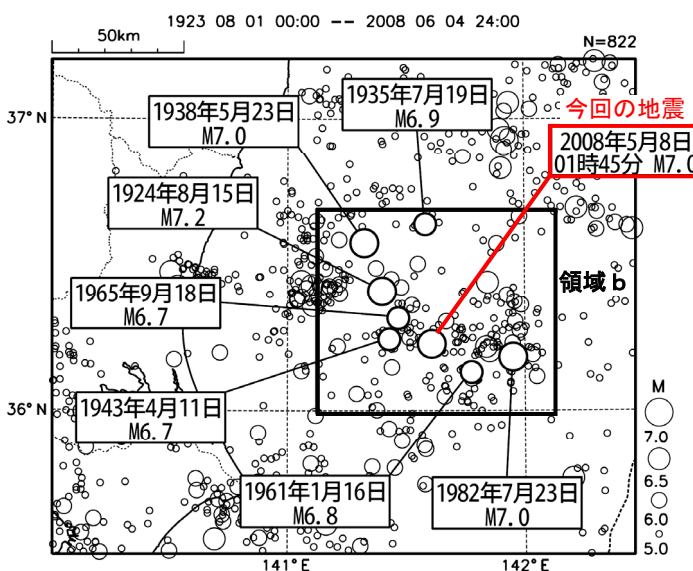
2008年5月8日01時45分に茨城県沖で $M7.0$ (最大震度5弱)の地震が発生した。この地震の発震機構(CMT解)は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

今回の地震の震央付近(領域a)では5月4日頃からまとまった地震活動が発生し、7日14時過ぎから活動が活発となった。地震活動は徐々に減衰してきてはいるが、5月31日に $M5.1$ (最大震度2)の地震が発生するなど継続している。

領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図



震央分布図 (1923年8月以降、深さ0~90km、 $M \geq 5.0$)



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域b)では、平均して約15~20年に1回程度の頻度で、 $M7$ 程度の地震が発生している。

領域 b 内の地震活動経過図

